

2024年度第4回企業倫理委員会

2025年3月10日

委員長挨拶

- 2024年度第3四半期決算は、燃料価格の低下が一段落したことによる、燃料費調整制度の期ずれ差益の縮小や総販売電力量の減少などにより、「減収・減益」となりました。今年度の業績予想については、送配電事業の営業利益増に加え、卸取引市場の活用や経営全般にわたる効率化などにより前回予想から増益となる見通しですが、足元では競争環境が一層厳しさを増していることや、物価上昇に伴う資機材の調達費用の増加など、安定的な利益の獲得と財務基盤の回復を図っていくうえでは、厳しい事業環境にあると認識しています。引き続き、グループ一体となった収益力強化や経営全般にわたる効率化、市場リスク管理に最大限取り組んでまいります。
- 島根原子力発電所2号機については、本年1月10日に営業運転を再開し、以降も、安定的に運転を継続しているところです。先月中旬に、一部データ伝送機器の不具合はありましたが、予備も含めて系統が2つあったことから、発電所の運転に影響を与えるものではなく、すみやかに機器の取替を完了し、正常な状態に復旧しています。また、今年度は暖冬との予想でしたが、想定よりも需要が伸びた中で、安定供給という面でも島根2号機は非常に戦力になっており、引き続き、安全確保を大前提に、緊張感を持って、安全運転の継続に努めるとともに、安全性向上への歩みを着実に進めてまいります。

議事概要

■ コンプライアンス推進施策の主な実施内容および一連の不適切事案に係る対応状況等について

コンプライアンス推進施策の主な実施内容、一連の不適切事案に係る対応状況等について説明した後、今後の取り組みにあたり有益なご意見をいただいた。

■ 主な意見

- 「中国電力はもっと変わろうプロジェクト」について、プロジェクトの検討結果に対するアクションは迅速に進められていると思う。プロジェクトメンバーとその他若手社員には、モチベーション維持のためにも、プロジェクトの検討結果をうけた施策の実施推進活動や、フィードバック展開に関しても引き続き関わらせることを提案する。「変わる」実感と達成感を次の若手社員にバトンタッチしてほしい。
- “face to face” のコミュニケーションが最も効果的と考えており、種々の社員とのコミュニケーションの場にて、経営者の本気度を直接伝えていただきたい。
- 不適切事案の水平展開は、コンプライアンス最優先の意識を社員に浸透させるために有益であるが、水平展開の仕方が大事と考える。一人ひとりが自分の腹に落とし込んでいるか、同様の事象に直面した時に、その思考や行動様式の中で自然に守れるかが大事である。職場内の共有が重要であり、職場の特色に合わせた展開の工夫をお願いする。
- 役員の仕事所訪問については、経営層と社員が双方向でコミュニケーションをはかる重要な機会であることから、継続して取り組む必要があると考える。そのうえで、今年度提起された意見を踏まえ、訪問の趣旨を共有することや事業所の負担にも考慮するなど、工夫した取り組みを展開していただきたい。

■ 内部通報制度の運用状況について

2024年11月～2025年1月における内部通報制度の運用状況について報告し、次のとおり意見をいただいた（通報件数：11件）。

■ 主な意見

- 通報案件については、概ね適切に対応されている。
- 下請会社での不適切事案について、法令違反ではないとはいえ、それに通じる考え方が根底にある可能性もあり、多重下請け構造では、教育指導の徹底が難しいのかもしれないが、斟酌しない風土の醸成も必要と考える。
- 匿名通報が多く不満が内在している気がする。職場内で不満を解消させたり、息抜きができる取り組みを考えていただきたい。